

平成24年度公益財団法人大阪市博物館協会外部評価【外部評価シート1・2】

館・所名	大阪文化財研究所			
	委員コメント総括			
<p>【シート1】 各館・所の運営状況(総括)</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・大阪文化財研究所の基幹業務である発掘に係わる調査研究事業、研究成果の公開が順調に行われていることを高く評価する。 ・基幹業務にとどまらず、教育普及事業の実施や地域の様々な主体とパートナーを組んで協働しようとする意欲的な姿勢を高く評価する。また、国内外の研究機関と連携し、研究成果を博物館・美術館の展示に生かそうとする姿勢も評価できる。 ・受託事業の状況により、事業量、収入額等が大きく変動する。大阪文化財研究所で調整できる範囲は限定されているとは思いますが、変動に適切に対応できる態勢をつくっていくことを要望する。 ・大阪文化財研究所のスタッフの年齢構成を見るとほぼ半数が40代で、30代以下が極めて少ない。スタッフの年齢構成には大きな偏りが生じている。30代以下の若い世代が研究所運営の中心になる時期までに、組織の経験と知識、技術、人脈等を次世代にどう伝えていくのか、中長期的視点に立って検討することが必要である。 			
<p>【シート2】 各館・所の特徴</p>	<p>「館の強み」の認識</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・調査研究能力の高いスタッフを多数擁し、発掘、調査研究に多くの実績をあげ、専門性と幅広さを同時に追求していることを高く評価する。また、調査研究成果を市民に公開する事業にも積極的に取り組んでいることも評価する。 ・発掘調査、総合的な調査、科学研究費補助金の獲得、資料の展示等を通じて、大阪歴史博物館を始め各種の施設等と連携していることを評価する。大阪歴史博物館との関係については、役割分担を明確にしながら、今後も連携協力関係を強固なものにしていくことを期待する。 		
	<p>「館の弱み」の認識</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・発掘調査に対する市民の理解を促進し、調査研究成果を市民に還元することを意図して、市内各所での展示や教育普及活動に努めている積極的な姿勢を高く評価する。自前の展示施設を更に整備していくことは難しい状況にあることから、大阪歴史博物館を始め他の博物館等との連携を強化し、他館の展示施設での公開に力点を置くことが重要である。大阪文化財研究所のHPに、研究所がかかわった資料の公開状況を公表・周知することにより、研究所の存在意義を更に高めることを期待する。また、事業費については、外部資金の獲得や他機関との連携により確保することが望まれる。 		
	<p>「環境の変化」の認識</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・開発工事の減少や、市場化テストの導入等、埋蔵文化財事業を行っている組織は全国的に厳しい状況に置かれている。府・市の統合により、埋蔵文化財部門がどのような形態になるのかが検討段階にあるため、現時点では、大阪文化財研究所の将来構想は明確にできない状態であろう。不透明な状況ではあるが、事業規模に必要な専門職員の配置計画を検討し、専門職員の能力開発を計画的に進めてほしい。また、引き続き外部資金を確保して、他の文化財研究所や大学等と共同研究を行い、調査成果の管理、活用方法について研究開発を行うことを期待する。 		
	<p>指定管理期間の成果</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・発掘調査、科学研究費補助金による研究とその成果の公開、大阪歴史博物館との共催展(「新発見! なにわの考古学」は好企画であった)やイベント等、順調に成果を上げていることを評価する。 ・今後も、大阪歴史博物館を始めとする博物館との連携による展示と研究所のHPを活用して、大阪文化財研究所の優れた調査研究成果を、市民や他の研究機関等に向けて体系的に発信していくことを期待する。 		
	<p>今後の課題</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・大阪文化財研究所が今後の課題として掲げていることはどれも重要なものである。課題を事業計画として具体化し、計画的に処理していくことを期待する。 ・組織の経験と知識、技術、人脈等を次世代にどう伝えていくのか、真剣に検討してほしい。 ・写真・図書類のデジタル・アーカイブス化を進めることを要望する。発掘調査報告書の電子化と公開を促進するためには遺跡リポジトリへの全面的な参加が望まれ、所管する大阪市教育委員会においても積極的に進めていただくことを大いに期待したい。 		